



## 分科会 4 ジェネリック医薬品の更なる普及のために ～最適なジェネリック医薬品の選択、そして医療費削減へ～

10月7日(日) 13:30～16:00 第4会場(アクトシティ浜松 コンgressセンター 4F 43+44会議室)

W-04-03

### 病院薬剤師によるジェネリック医薬品の普及・啓発活動

ますはら けいそう  
増原 慶壮

聖マリアンナ医科大学病院

聖マリアンナ医科大学病院の薬剤部は、2001年7月より、WHOのファーマシューティカルケアの理念である「患者のQOLを改善するという明確な成果を引き出す目的のために、責任ある薬物治療を提供する」ことを目的に業務を実践してきている。この理念に基づく薬剤部の行動指針として、1. 薬物治療ガイドラインや大規模臨床試験などの根拠に基づく、適正で合理的な薬物治療への参加。2. 副作用の収集・検索・究明。3. 院内ファーマシューティカルケアの作成やジェネリック医薬品の使用促進などに基づく、廉価で適正な薬剤の選択。の3項目を挙げている。このため、当院では、2003年4月からDPCの導入を切っ掛けに、薬剤部が中心となり、この年5月よりジェネリック医薬品の積極的な導入を進めている。そして、2004年5月から、地域の薬剤師会の協力を得て、一般名処方を発行し、ジェネリック医薬品の使用促進に取り組んでいる。ジェネリック医薬品を積極的に導入した背景には、DPCの導入（病院経営的観点）、医療費削減への貢献（国家財政的観点）、患者の経済的負担の軽減（家計的観点）、薬剤師の職能の向上（ファーマシューティカルケアの実践）がある。一般名処方の特長は、薬局で必ず先発医薬品とジェネリック医薬品の説明が必要になる（ジェネリック医薬品への変更が勧めやすくなる）、そして、薬局のジェネリック医薬品の在庫が、1成分1規格を1種類のみ在庫でよい（在庫の負担軽減）等である。その結果、最初の3ヶ月間のジェネリック医薬品への変更率は、約20%、1年後には、約26%であった。当院では、2001年10月より、病棟に薬剤師の配置を開始しており、入院患者のジェネリック医薬品への変更の説明、ジェネリック医薬品の情報収集や医師をはじめとする医療従事者への情報提供は、薬剤師がすべて担っている（ファーマシューティカルケアの実践）。2012年4月現在、当院採用医薬品1,715品目中、ジェネリック医薬品は431品目（25.1%）である。また、ジェネリック医薬品の使用に伴う医薬品購入費の削減効果は、薬価ベースで、2009年度2億6千万円、2101年度3億6千万円であった。そして、ジェネリック医薬品の使用を開始してから約9年間、ジェネリック医薬品の有効性・安全性が、臨床で問題になったことはない。ジェネリック医薬品の使用推進は、ファーマシューティカルケアの理念のもと、薬の専門家である薬剤師が担うべきである。このためには、薬学教育からファーマシューティカルケアの理念に基づく、すなわち薬物治療の中心の教育が望まれる。社会に望まれる薬剤師を育成するためにも「良き研究者を育てれば、良き薬剤師が育つ」という薬学教育の呪文から解放する必要がある。